

日本語と日本文学

第 18 号

-
- 『守覚法親王百首』本文考 …………… 千草 聡(1)
- 話者自身の経験に対して使われた
〈けむ〉について …………… 宮武 利江(11)
-
- 大学の講義における接続の表現…………… 金久保紀子(左1)
- 日本語と韓国語の漢語動詞…………… 辛 碩基(左12)
- 外来語音と現代日本語音韻体系…………… 松崎 寛(左22)
- 助詞を省略した文における発話
時間とピッチの特徴…………… 守時なぎさ(左31)
- 蘆田恵之助『綴り方教授法』に関する史的考究
——指導理論の実際とドイツ作文修辞法
四階級説の系譜——…………… 渡部洋一郎(左39)
-

平成 5 年 8 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度

一、原稿〆切は毎年度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―一

〒筑波大学 文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであります。

これにしたがい、編集委員会では投稿規定を一部改め、二月末日および八月末日の二度締切を設けることにしました。論文の対象分野および枚数三十枚程度は従来通りとします。

なお、投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

学会の顔ともいべき本誌の一層の充実は、強く願われるところです。学内外を問わず、広く会員の皆様の投稿を仰ぎ、さらなる発展を期したいと思えます。積極的に御協力下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

『日本語と日本文学』第十八号をお送りいたします。この号は日本語分野の論文が多くなりました。日本文学分野は次号以後に期待したいところです。

今号は、財政的な問題もあり、印刷に入るのが大幅におくれてしまいました。執筆者のみなさんにはたいへんご迷惑をおかけし、また会員のみなさまにはお届けができませんでした。深くおわび申し上げます。

(高田 誠)

平成五年八月十五日印刷
平成五年八月二十日発行 **第18号**

305 茨城県つくば市天王台

〒筑波大学 文芸・言語学系内

編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 森野宗明

発行所 (有) 笠間書院

101 東京都千代田区猿樂町二丁目五

〒電話 〇三三三二九五 一三三三一

振替口座 東京 一―五六〇〇二